

平成 22 年度東京大学大学院情報理工学系研究科修士課程入学試験
専門科目（システム情報学）における出題ミスについて

東 京 大 学

このたび、平成 22 年度情報理工学系研究科修士課程入学試験の専門科目（システム情報学）の問題の一部に出題ミスがあることが判明いたしました。

出題ミスが確認された経緯、出題の誤り及び本学の対応は次のとおりです。

1．出題ミスの内容

平成 21 年 8 月 25 日（火）に実施した情報理工学系研究科システム情報学専攻の修士課程入学試験における筆記試験の専門科目(システム情報学)で出題した第 1 問(1) の下記の部分

$$R(\omega) = \begin{cases} 1 & (|\omega| < \pi/T) \\ 0 & (|\omega| \geq \pi/T) \end{cases}$$

が、正しくは、

$$R(\omega) = \begin{cases} T & (|\omega| < \pi/T) \\ 0 & (|\omega| \geq \pi/T) \end{cases}$$

であるべきであった。

（問題の関係する部分を、別紙に示す。）

2．出題ミスの発見の経緯

問題が生じた専門科目(システム情報学)の試験は 8 問の中から 4 問を選択して解答させる形式であり、試験時間は 10:00～13:00 の 3 時間である。当該専門科目（システム情報学）を受験した者 40 名のうち、23 名が当該問題を選択・受験した。当該専門科目（システム情報学）の試験の終了後、採点中に出題委員（当該問題の出題者）が発見した。

なお、当該専門科目（システム情報学）を受験した者 40 名の内訳は、システム情報学専攻（募集人員 25 名）志願者 31 名、数理情報学専攻（募集人員 25 名）志願者 4 名、創造情報学専攻（募集人員 29 名）志願者 5 名である。

3．採点方法及び受験者への周知について

対応策として、第 1 問を選択、解答した者については、第 1 問(1)の解答は全て正解と

して取り扱うこととした。また、第1問(2)～(4)については、本来、(1)とは独立した設問であるが、(1)の影響を受けたと判断される解答は、正解として扱うこととした。

なお、この対処は、全受験者の合否等に影響を及ぼさず、不利益を被る受験者はいないことを確認している。

今回の出題ミスについては、9月3日(木)に、専門科目(システム情報学)の試験を受験した受験者全員に、出題ミスの内容及び採点方法についての通知文を速達で郵送した。

4. 出題ミスの起こった原因とチェック体制について

情報理工学系研究科システム情報学専攻においては、出題委員が出題問題案を作成後、複数の教員で構成する複数回の問題検討会により、相互チェックを行っており、また、入試関係教員によるチェック確認も行っていたが、出題ミスの発見には至らなかった。

5. 今後の対応

今後、入学試験問題の出題に当たっては、このようなことの無いよう、各担当委員に厳しく周知徹底し、再発防止に努めたい。

別 紙

(1) サンプリング定理によれば, $f(t)$ は $f[n]$ によって

$$f(t) = \sum_{n=-\infty}^{\infty} f[n]r(t - nT) \quad (1)$$

のように表すことができる. ただし $r(t)$ は,

$$R(\omega) = \begin{cases} 1 & (|\omega| < \pi/T) \\ 0 & (|\omega| \geq \pi/T) \end{cases}$$

の逆フーリエ変換である. $r(t)$ を求めよ. また $f(\frac{T}{2})$ を, $f[n]$ ($-\infty < n < \infty$) を用いて, できるだけ簡単な形で表せ.